

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
解剖生理学 I	1 年前期	2	60	(理学療法士として3年)
科目のねらい 人体がどのような構造をもち、機能しているかを学び、健康時の状態及び健康障害によって受ける変化の理解につなげる。				
到達目標 1. 人体の構造と機能について理解する。				
DPとの関連 ◎1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	人体を構成する細胞の構造、それらの集合体である組織や器官の特徴とその構造を説明できる	人体【体表から触知する人体の構造、構造と区分、部位と器官、方向と位置を示す用語】について	講義	
2		細胞の構造、機能、組織の種類、特徴	講義	
3		人体の恒常性と人体の器官系の機能	講義	
4	運動における神経系と筋肉系、筋の役割・収縮機構について説明できる	運動器の構造【骨格・骨の連結】	講義	
5		運動器の構造【骨格筋】	講義	
6		運動器の構造【体幹骨格と筋】	講義	
7		運動器の構造【上肢の骨格と筋】	講義	
8		運動器の構造【下肢の骨格と筋】	講義	
9		運動器の構造【頭部の骨格と筋】	講義	
10	神経系の構造と機能について説明できる	神経を形作る細胞と機能	講義	
11		中枢神経の構造と機能	講義	
12		脊髄神経と脳神経	講義	
13		脳の高次脳機能について	講義	
14		運動機能と下行伝導路について	講義	
15		感覚機能と上行伝導路について	講義	

回	目標	学習内容	方法	担当
16	神経系の構造と機能について説明できる	末梢神経系【自律神経系・体性神経系】	講義	
17		視覚伝導路、聴覚伝導路、味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚、疼痛のメカニズムについて	講義	
18	呼吸器系の構造と機能が説明できる	呼吸器系【上気道、下気道と肺、胸膜、縦隔】	講義	
19		呼吸【内呼吸と外呼吸、呼吸運動、呼吸気量、肺気量分画、努力呼吸曲線、呼吸気的气体組成】	講義	
20		呼吸【肺におけるガス交換、酸素の取り込み、血液中のガス組成】	講義	
21		呼吸【生体の酸塩基平衡、呼吸中枢、呼吸反射、末梢生化学受容体】	講義	
22	心臓の構造と機能、血液循環の説明ができる	心臓血管系の基礎、心臓の構造について	講義	
23		心臓の内腔と血液の流れ、弁、心臓の栄養血管、心臓の刺激伝導系について	講義	
24		動脈系について	講義	
25		静脈系について	講義	
26		胎児の血液循環（胎児循環）、リンパ系、脾臓、胸腺について	講義	
27		心臓と血管の生理について	講義	
28	血液、組織液などの機能を説明できる	血液の機能【血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板】	講義	
29		血液の機能【血漿タンパク質と赤血球沈降速度、血液の凝固と繊維素溶解、血液凝固、出血時間・凝固時間、血液型】	講義	
30	まとめ	まとめ	講義	
受講上の注意		関連科目		
授業は能動的に学ぶこと		病態論Ⅰ・Ⅱ		
事前および事後学習				
1. 本時で学習する内容については事前にテキストを確認しておく。				
成績評価の方法				
筆記試験 100%				
教科書・参考書・その他の教材				
解剖生理学 人体の構造と機能 [1] (医学書院)				
病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] (医学書院)				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
解剖生理学Ⅱ (人体解剖見学を含む)	1年後期	2	60	(理学療法士として3年)

科目のねらい

人体がどのような構造をもち、機能しているかを学び、健康時の状態及び健康障害によって受ける変化の理解につなげる。

到達目標

1. 人体の構造と機能について理解する。

DPとの関連

◎1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	消化器の構造と機能を説明できる	消化器系の全景、口の構造と機能	講義	
2		咽頭と食道の構造と機能	講義	
3		胃の構造と機能	講義	
4		小腸の構造と機能	講義	
5		栄養素の消化と吸収	講義	
6		大腸構造と機能	講義	
7		肝臓、胆嚢の構造と機能	講義	
8		腹膜【腹膜と腸間膜、腹膜と内臓の位置関係、胃の周辺の間膜】	講義	
9	内分泌系の機能を説明できる	ホルモンの化学的性質と作用機序	講義	
10		ホルモンの化学的性質と作用機序	講義	
11		下垂体ホルモン、パソプレッシン、オキシトシン、成長ホルモン、甲状腺ホルモン、サイロキシン、トリヨードサイロニン、ヨード、カルシトニン	講義	
12		副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン、ステロイドホルモン、アドレナリン、ノルアドレナリン、アンギオテンシン	講義	
13		膵島ホルモン、インスリン	講義	
14	腎臓、泌尿器の構造と機能について説明できる	腎臓の機能と構造、糸球体、尿細管の構造と機能	講義	
15		傍糸球体装置、クリアランスと糸球体濾過量、生理活性物質	講義	

回	目標	学習内容	方法	担当
16	腎臓、泌尿器の構造と機能について説明できる	排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿	講義	
17		腎臓の機能【体液の調節と尿の生成】について	講義	
18	性機能、性周期について説明できる	生殖・発生と老化の仕組み	講義	
19		生殖器系の構造【男性生殖器（精巣、精巣上体、精管、前立腺、陰茎）】について	講義	
20	感覚器系の機能について説明できる	感覚【皮膚感覚、皮膚節、痛覚】について	講義	
21		生体防御機能について	講義	
22		生体防御機能について	講義	
23		感覚器の構造【視覚器：眼球、眼球付属器、網膜】	講義	
24		感覚器の構造【聴覚器：聴覚、前庭感覚と平衡】	講義	
25	身体機能の加齢変化について説明できる	成長と老化について	講義	
26	筋収縮による身体変化について説明できる	筋収縮による身体的変化	講義	
27	運動時の循環と代謝について説明できる	運動時の循環と代謝	講義	
28	まとめ	まとめ	講義	
29	解剖見学の目的・心構・態度・ポイントを説明できる	解剖見学事前学習 目的・心構え・態度・解剖見学のポイント	個人学習	
30			個人学習	
受講上の注意		関連科目		
授業は能動的に学ぶこと		病態論Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ		
事前および事後学習				
1. 本時で学習する内容については事前にテキストを確認しておく。				
成績評価の方法				
筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材				
解剖生理学 人体の構造と機能 [1] (医学書院)				
病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] (医学書院)				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
栄養学	1年前期	1	30	(大学、専門学校非常勤講師として44年)
科目のねらい				
生体が発育・成長して生命を維持し健全な生命活動を営むために必要なエネルギーと栄養素の働きを理解できる。				
到達目標				
1. 人間栄養学と看護の関係について理解できる。 2. 栄養素の種類と働き、エネルギー代謝について理解できる。 3. 栄養状態の評価判定について理解できる。 4. ラーフステージお栄養について理解できる。 5. 健康障害に対する食事療法について理解できる。				
DPとの関連				
◎1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることが で				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	栄養素と人間の栄養状態について説明することができる。	人間栄養学と看護	講義	
2	食事における看護師の役割が説明することができる。	看護と栄養学	講義	
3	栄養素の種類と働きについて説明できる。	栄養素の種類と働き (炭水化物・脂質・タンパク質)	講義	
4		栄養素の種類と働き (ビタミン・ミネラル・食物繊維・水)	講義	
5	エネルギー代謝について説明できる。	食品のエネルギー 体内のエネルギー エネルギー代謝の測定方法 エネルギー消費	講義 演習	
6	食品成分と食事摂取基準について説明できる。	食品成分と食事摂取基準	講義	
7	栄養ケア・マネジメントについて説明できる。	チームアプローチと栄養ケア・マネジメント (スクリーニング・アセスメント・計画・実施・モニタリング・評価)	講義	
8	栄養状態の評価・判定について説明できる。	栄養状態の評価・判定	講義	
9	ライフステージと栄養について説明できる。	ライフステージと栄養 (乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人各期)	講義 演習	
10		ライフステージと栄養 (妊娠期・授乳期・更年期・高齢期)	講義 演習	
11	病院における栄養管理と栄養補給法について説明できる。	病院における栄養管理 栄養補給法	講義 演習	
12	主な疾患・症状患者の食事療法について説明できる。	疾患・症状別食事療法 (痩せ・低栄養患者・肥満・メタボリックシンドローム患者) 循環器疾患(高血圧症・動脈硬化心不全)	講義 演習	
13		疾患・症状別食事療法 ・栄養・代謝疾患・腎臓疾患 ・血液疾患患者・摂食・嚥下障害患者	講義 演習	
14	場面別の栄養管理について説明できる。	場面別の栄養管理 ・術前術後における栄養管理 ・がんの食事療法	講義 演習	
15	健康づくりと食生活について説明できる。	食生活の変遷と栄養の問題点 食生活の改善への施策 食の安全性と表示	講義 演習	
受講上の注意			関連科目	
<ul style="list-style-type: none"> 解剖生理学を理解したうえでの受講が必要。 解剖生理学、生化学、病態生理、治療、看護を関連付けて学習する。 			生化学 解剖生理学 治療論 病理学	

事前および事後学習

- ・事前学習：講義該当部分のテキスト、その他の教材を事前に読んで授業に臨む。
- ・事後学習：授業終了後は、テキスト、その他の教材を復習する。

成績評価の方法

筆記試験100%

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 (医学書院)

系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 (医学書院)

糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病協会・文光堂

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
生化学	1年後期	1	30	(歯科大学准教授として7年)
科目のねらい 生体の物質代謝やエネルギー代謝を各臓器、組織間の相互作用を踏まえたうえで理解する。				
到達目標 1. 人体組織における生化学の意味について説明できる。 2. 生体における物質代謝・異物代謝について説明できる。 3. 遺伝学、分子生物学について説明できる。 4. 細胞のシグナル伝達とがんについて説明できる。 5. さまざまな生体機能の中で、正常を維持するためためにどの物質が重要な役割を果たしているのか、正常から異常へと変化する際にどのような経路が関連するのか説明できる。				
DPとの関連 ◎1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることがで				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	人体組織における生化学の意味について説明できる。	人体と生化学 人体を構成する成分	講義	
2	酵素と補酵素について説明できる。	酵素・補酵素・ビタミン	講義	
3	糖質の異化・同化について説明できる。	糖質の構造と機能 糖質代謝	講義	
4			講義	
5	脂質の分解と合成について説明できる。	脂質の構造と機能 脂質代謝 エネルギー代謝の総括	講義	
6			講義	
7	アミノ酸の分解と尿素の生成について説明できる。	タンパク質の構造と機能 アミノ酸代謝・ポルフィリン代謝	講義	
8			講義	
9	異物代謝と活性酸素除去反応について説明できる。	生体異物代謝と活性酸素除去反応	講義	
10	遺伝子の発現について説明できる。	遺伝子と遺伝情報の流れ	講義	
11	核酸の代謝について説明できる。	核酸の代謝・ヌクレオチド代謝	講義	
12	遺伝子の複製・転写・翻訳について説明できる。	遺伝子の複製・転写・翻訳 遺伝子の発現調節	講義	
13			講義	
14	がんの発生機構について説明できる。	がんの分子生物学	講義	
15	細胞のシグナル伝達について説明できる。	シグナル伝達機構・ホルモン作用の分子機序	講義	
受講上の注意 ・関連する科目の内容をふまえて受講する。			関連科目 解剖生理学 治療論 病理学 栄養学	
事前および事後学習 ・事前学習：講義該当部分のテキスト、その他の教材を事前に読んで授業に臨む。 ・事後学習：授業終了後は、テキスト、その他の教材を復習する。				
成績評価の方法 筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材 系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 (医学書院)				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
社会福祉・社会保障論	2年後期	2	30	(大学講師として21年)
科目のねらい 社会福祉についての理解を深め、保健・医療・福祉の連携や協働の視点から社会保障制度の意義や社会資源の活用を理解する				
到達目標 1. 社会福祉の考え方とその変遷を理解する。 2. 看護に活用する様々な社会資源の制度としくみを理解する				
DPとの関連 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 社会保障制度と社会福祉について説明できる	1. 社会保障制度 2. 社会福祉の法制度	講義	
2	2. 現代社会の変化と社会福祉の動向について説明できる	1. 現代社会の変化 2. 社会保障・社会福祉の動向	講義	
3 ・ 4 ・ 5	3. 医療保障について述べる ことができる	1. 医療保障制度の沿革 2. 医療保障の構造と体系 3. 健康保険と国民健康保険 4. 高齢者医療制度 5. 保険診療のしくみ 6. 公費負担医療 7. 国民医療費	講義	
6	4. 介護保障について述べる ことができる	1. 介護保険制度創設の背景と歴史 2. 介護保険制度の概要 3. 介護保険制度の課題と展望	講義	
7	5. 所得保障について述べる ことができる	1. 所得保障制度のしくみ 2. 年金保険制度 3. 社会手当 4. 労働保険制度	講義	
8	6. 公的扶助について述べる ことができる	1. 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2. 生活保護制度のしくみ 3. 低所得者対策 4. 近年の動向	講義	
9	7. 社会福祉の分野のサービスについて説明することができる	1. 高齢者福祉 2. 障害者福祉 3. 児童家庭福祉	講義	
10 ・ 11 ・ 12 ・ 13	8. 社会福祉の実践の基盤としての援助がどのような場合に必要であるか説明できる	1. 社会福祉援助とは 2. 個人援助技術 3. 集団援助技術 4. 間接援助と関連援助 5. 社会福祉援助の検討課題 6. 連携の重要性 7. 社会福祉実践と医療看護との連携 8. 連携の場面とその方法	講義	
14 ・ 15	9. 社会福祉の歴史について説明することができる	1. 社会福祉の歴史の見方 2. イギリスの社会福祉の歴史 3. 日本の社会福祉	講義	
受講上の注意 積極的な姿勢で授業に取り組む			関連科目 関係法規 基礎看護学概論 在宅看護論	
事前および事後学習 1. 必要な時間：15時間 2. 事前学習：教科書を事前に読んでおく 3. 事後学習：講義のあと復習をする				
成績評価の方法 筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材 教科書 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 社会保障・社会福祉				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
関係法規	3年後期	1	30	(看護師として30年)
科目のねらい				
看護の対象である人々の日常生活における疾病の予防や治療、健康の保持増進にかかわる制度や法規について理解を深めると同時に対象者とともに自分自身を守ることにつながることを理解できる				
到達目標				
1. 医療が本質的に医的侵襲行為であり、法により正統に免責されていることを理解できる 2. 医療職の資格が法的に厳格に定められていることを踏まえ、業務内容も医療法による基本方針に従うことを理解する。				
DPとの関連				
◎4.保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 ・ 2	1. 医療と法のかかわりについて述べることができる	1. 看護と法のかかわり 2. 法のなにか 3. 看護関係法令の基本について	講義	
3	2. 看護を取り巻く法と看護の法的責任について述べるができる	1. 看護職の国家資格 2. 保健師助産師看護師法について	講義	
4	3. 看護業務の発展と看護の今後の在り方について述べるができる	1. 職務内容の基本 2. 看護師業務の発展 3. 看護師等人材確保の促進に関する法律について	講義	
5 ・ 6	4. 医事法における法の在り方と看護の関係を述べるができる	1. 医療関係職とのかかわり 2. 医療施設の内容について 3. 救急・災害時の連携について	講義	
7	5. 医療契約の基本を理解し、インフォームド・コンセントを身につける	1. 医療契約とは 2. インフォームドコンセント 3. 患者の自己決定と同意 4. 医師の応召義務	講義	
8 ・ 9	6. 看護師の労働環境を理解し、労働者の法的仕組みが説明できる	1. 看護労働の実際 2. 日本の労働条件の基準 3. 職場における男女平等 4. 職場の安全衛生と労働災害防止	講義	
10 ・ 11 ・ 12 ・ 13	7. 看護師が法的に責任を問われる場合を推論できる	1. 看護師の法的責任 2. 刑事責任 1) 刑事手続きのしくみ 2) 犯罪の成立要件 3) 異状死届け出義務と黙秘権 4) 臓器移植 5) 終末期医療と安楽死 3. 民事責任 1) 民事紛争の処理 2) 看護師の民事責任が問われたケース 3) 成年後見制度	講義	
14 ・ 15	8. 医療教習体制の基本を述べるができる	1. 医療法の基本理念と改正経緯 2. 医療提供の場 3. 医療安全・事故調査制度 4. 在宅医療・その他の制度 5. 医薬品	講義	
受講上の注意		関連科目		
これから、現場に立ち、看護を行っていく上で、重要な内容であることを踏まえ、自分の事として学んでいく		医療と倫理 基礎看護学概論 社会福祉と社会保障 看護管理		
事前および事後学習				
1. 必要な時間:30時間 2. 事前学習:教科書を事前に読んでおくこと 3. 事後学習:授業の後、復習をすること				
成績評価の方法				
筆記試験100% (中間試験20% 終講試験80%)				
教科書・参考書・その他の教材				
教科書 看護法のすすめ 大橋将 著 アスパラ				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
医療と倫理	1年後期	1	15	(看護専門学校非常勤講師として13年)
科目のねらい 医療に携わる者が考え取りくむべき倫理について、共通の土台となる基本的な医療倫理について学ぶ。				
到達目標 1. 医療倫理の基本的な理論を学ぶ 2. 医療従事者の倫理的態度・倫理感の重要性を認識することができる 3. 保健・医療の現場における問題をさまざまな観点から考えることができる				
DPとの関連 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 ・ 2	1. 医療倫理に関するキーワードを説明できる	1. QOLとSOL QOLチェックシート 2. 自由と自己決定 3. 最善の利益 4. 医学的無益性	講義	
3 ・ 4	2. 医療倫理の基本問題について述べる事ができる	1. プライバシーと守秘義務 2. インフォームド・コンセント 3. 医療情報の開示と説明 4. 本当の事の告知 5. パターナリズム	講義	
5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	ケーススタディを通して、倫理問題について考え意見を対比する	1. 成人看護、一般診療科の場で 2. 母性看護、小児看護、産科婦人科、小児医療の場で 3. 老年看護、高齢者医療の場で 4. 精神看護、精神医療の場で 5. 保健活動と研究、教育の場で	講義 演習	
受講上の注意 積極的な姿勢で授業に取り組む			関連科目 倫理学 基礎看護学概論 看護管理	
事前および事後学習 1. 必要な時間：10時間 2. 事前学習：教科書を事前に予習しておく 3. 事後学習：講義のあと復習をすること				
成績評価の方法 筆記試験40% 授業態度20% 提出物 40%				
教科書・参考書・その他の教材 教科書 医療倫理学のABC 第4班 メヂカルフレンド社				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
公衆衛生	2年後期	1	15	(大学病院医師として26年)
科目のねらい				
人をさまざまな社会集団で捉え、国民あるいは特定の集団を対象とする分野である公衆衛生の基本的事項を学び、広く集団や社会の視点から健康問題をみる力を習得する				
到達目標				
1. 公衆衛生の意義と重要性が理解できる 2. 我が国の健康水準の現状を理解できる 3. 疾病予防や健康増進の方策について学ぶことができる				
DPとの関連				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 公衆衛生の定義と意義を説明できる	1. 公衆衛生とは何か 2. 公衆衛生の歴史 1) 世界の公衆衛生の歴史 2) 日本の公衆衛生の歴史 3) 戦後の展開 ①プライマリヘルスケア ②ヘルスプロモーション	講義	
2	2. 健康を守るための公衆衛生のしくみが説明できる	1. 政策展開 2. 国と地方公共団体の役割 3. 専門職の役割 4. 多職種との協働 5. 住民との協働	講義	
3	3. 集団の健康をとらえるための疫学・保険統計を説明できる	1. 公衆衛生の場での疫学 1) 集団をとらえる (1) 疾患の発生状況 ①有病率 ②罹患率 ③受療率 ④疾病分類 (2) 健康水準・医療水準の把握 ①平均寿命、平均寿命、健康寿命 ②死亡率 ③死因 (3) 健康指標の基礎資料 ①人口ピラミッド 2) 原因の分析 (1) 暴露 (2) 因果関係 3) 計画、実施	講義	
4	4. 健康と環境の関連性を踏まえ、生活環境や人体に及ぼす影響、その対策を説明できる	1. 環境と健康 1) 地球規模の環境と健康 2) 身の回りの環境と健康 2) 日本の環境行政	講義	
5	5. 感染症とその予防対策について理解し、感染症保健活動が説明できる	1. 感染症とその予防対策 1) 我が国の感染症予防対策 2) 院内感染とその予防 2) 公衆衛生上重要な感染症と対策	講義	
6	6. 生活習慣病や歯科、障害者の保健活動について説明できる	1. 公衆衛生の実践 1) 成人保健 生活習慣病の現状と対策 飲酒・喫煙 2) 歯科保健 2) 障害者保健	講義	
7	7. 学校保健の内容について説明できる	1. 学校保健 1) 現代のこどもの健康課題 2) 学校保健の展開 3) 特別な支援を必要とするこども	講義	
8	8. 産業保健活動のしくみと内容について説明できる	1. 産業保健 1) 職場における健康を守る仕組み 2) 産業保健活動の展開 3) 産業保健における今後の課題	講義	

受講上の注意 既習知識を掘り起こしながら、今回の講義と関連させる	関連科目 社会福祉・社会保障論 基礎看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論
事前および事後学習	
1. 必要な時間 30時間 2. 事前学習：教科書を事前に読んでおくこと 3. 事後学習：講義のあと復習をすること	
成績評価の方法	
筆記試験 100%	
教科書・参考書・その他の教材	
教科書 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 公衆衛生 医学書院 参考書 国民衛生の動向 厚生統計協会	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
保健医療論	1年前期	1	15	(医療センター院長として9年)
科目のねらい				
医療の発展や、現代医療のシステム、現代医療を取り巻く諸問題について理解する				
到達目標				
1. 医療の歩みや医療観の変遷を理解できる 2. 保健・医療・介護の現状を知り、その最前線と課題を理解できる 3. 医療政策と医療経済について理解できる				
DPとの関連				
◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 医療の歩みや医療観の変遷が述べられる	1. 現代医療の起源 2. 日本の医療がたどってきた道 3. 20世紀の医療 4. 医療観の移り変わり 1) 近代以前から受け継がれてきた医療観 2) 自然科学的世界観に基づく医療観 3) 科学的自然観に基づく相対主義 4) これからの医療観	講義	
2 3 4	2. 私たちの生活と健康を守るための保健・医療・福祉の現状を説明できる	1. 病気やけがをした時の医療体制 1) 救急医療と蘇生術 2) 診療所と病院 3) 薬と安全性 4) 我が国の保健医療のしくみ 2. 生活と環境衛生、保健・福祉行政 1) 安全で空的な生活環境のために 2) 保健所 3) 母子保健 4) 学校保健 3. 疾病の一次予防と健康増進 1) 急性期疾患の治療と限界 2) 予防医学と健康増進 3) 生活習慣病 4) 健康日本21 4. 少子高齢化社会と世代間のきずな 1) 少子高齢化と人口減少 2) 人口動態統計 3) 高齢者像の転換 4) 老人神話の検証 5) 高齢者介護の問題 5. 障害者のノーマライゼーションと社会的包摂 1) リハビリとノーマライゼーション 2) 障害者施策と実際 3) 自立支援法から総合支援法へ 4) こころのバリアフリー化 6. 心の健康と精神医療 1) 現在社会と心の病 2) 家族機能とこころの問題 3) 精神保健行政の実際	講義	
5	3. 現代医療の最前線について述べることができる	1. 科学技術の進歩と社会生活の変化 2. 現代医学の最前線と先端医療技術の最前線 1) がん診療 2) 移植医療 3) 人工臓器 4) 体外受精と出生前診断 5) 再生医療	講義	
6	4. 現代医療の課題について述べることができる	1. 薬の副作用と偶発症 2. 医現病 3. 生命倫理 4. 医療不信 5. インフォームドコンセント	講義	
7 8	5. 医療政策と医療経済について説明できる	1. 医療と経済 1) 医療サービスの特殊性 2) 公的医療保険の必要性 3) 医療職の不足 2. 転換を迫られる医療政策 1) 国民医療費 2) これまでの医療費抑制政策 3) 急性期医療の集約化 4) 費用効果分析 5) 医療者の持つべきコスト意識	講義	
受講上の注意		関連科目 社会福祉・社会保障 公衆衛生 基礎看護学概論		

積極的な姿勢で講義に臨むこと	老年看護学	成人看護学	精神看護学
事前および事後学習 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：教科書を事前に読んでおく 3. 事後学習：講義内容を復習しておく			
成績評価の方法 筆記試験 100%			
教科書・参考書・その他の教材 教科書 1. 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 医学書院 参考書 国民衛生の動向			